

県議会議員

# あらい、絹世の「磯っ子」レポート

夢と希望のある神奈川を




<https://araikinuyo.jp/>

## ケアラー（家族等無償の介護者）の支援を重視 県、相談窓口・相談員・居場所の設置等に着手

〓1億総介護時代、を迎える中、高齢者や障がい者の介護、アルコールや薬物依存症等家族の介護や世話、引きこもりや不登校の家族の世話などを担っている人（ケアラー＝介護・看護・療育・世話・心や身体に不調のある家族への気遣いなどのため、定期的かつ必要なケアを無償で提供している家族・近親者・友人・知人など）が増え、多重や遠距離・働き盛り介護、将来の持続可能社会の存続にも関わりかねないヤングケアラー（18歳以下のケアラー、家事や家族の世話などで学校に行けない・希望する進路に進めないなどに直面）の問題など多くの課題があることが判明しました。一方でケアラーへの認識や支援もまだまだの状態、神奈川県でも2022年度からケアラー支援への本格的な取り組みに乗り出しました。

2010年に発足し同支援活動の牽引役を任っている一般社団法人・日本ケアラー連盟の調査（2010年）によると「ケアラーの7割以上が家族・親族」「男性が3割を占め増加中」「ケアラーの5人に1人は多重介護」「12人に1人は20年以上介護」「7人に1人はかなりの負担になっている」、国の実態調査では「中高校生の約20人に1人はヤングケアラー」としています。県が昨年2月実施したケアラー実態調査（県内の包括支援センターを訪れたケアラー584件が対象）では「ケアラーやヤングケアラーという言葉を知らなかったは、いずれも50%前後」に上り、認知度もまだまだの状態。

ケアラー支援は海外では英国がいち早く2014年に「ケアに関する法」を成立させていますが、日本では国が2021年度にヤングケアラーに係る調査研究を行い、2022年度には事業の予算化が行われました。県では昨年3月改定した「かながわ高齢者保健福祉計画」で家族介護者支援をケアラー支援に転換し、支援に関するホームページも開設しました。また新年度一般会計予算ではケアラーへの事業としてSNSによる相談窓口や専門相談員、カフェ（ケアラー同士で気軽に集まれる場所）の設置支援、ヤングケアラーへの学習支援を行う項目を盛り込みました。県内の自治体では2016年に藤沢市、次いで海老名市がヤングケアラーの調査を行っておりますが、今年度には横浜市が調査を行うことにしています。



**コレが言いたい!**

高齢者の増加や家族構成の変化、また働きながら介護をする方が増加するなど社会環境も大きく変化してきています。「介護は家族がするもの」という言葉のもと介護者（ケアラー）が大変だと声を上げる事が出来ず、孤独・孤立に陥るケースも多いです。要介護者の介護の質を確保する事と同時に、ケアラーの質や生活の向上にも目を向けるべきであり、介護をする人、される人の両者が共に尊重され、無理なく介護を続ける事が重要です。また、ヤングケアラーに関しても、子どもが家事や家族の世話をするのがあたりまえ、また、お手伝いをするえらい子、と見てしまいがちですが、本来大人が担うべき家事や家族の世話など重い責任や役割を子供に担わせてしまっています。子どもたちには手助けされる権利があり、子どもがSOSを上げ相談しやすい体制、子どもを理解する大人がそばにいる事や安心出来る居場所を作る事が大人の役割だと考えます。



4月6日(水)から15日(金)は「春の全国交通安全運動」です。また、4月10日(日)は「交通事故死ゼロを目指す日」です。2021年県内の事故死者数は全国ワーストとなりました。亡くなった方で最も多かったのが「歩行者」で、年齢別では高齢者が半数近くに上りました。

# 磯子あれ? これ?

## 上中里神社 (磯子区上中里町)

上中里神社は、行基菩薩が当地巡錫の折に彫った不動明王像を祀った不動堂として創祀されたと言われています。場所は上中里団地東側の山(不動山)にあります。寛永年間(1624~)の頃に山火事があり、不動堂は焼失しました。祀られていた不動明王像と二童子像(矜伽羅・制多迦)も、一時行方不明になりました。後の縁起話によると、これらの像は何年後かに見つか、喜んだ村人が山上に社殿を再興して上中里神社とし、同村の鎮守としました。

不動山の麓に領主の間宮左衛門信久によって寛文12(1672)年に創建された間宮寺は、明治元(1868)年、神仏分離令の際に廃寺となり、不動堂だけが残りました。同堂は、明治45(1912)年に栗木村の日枝神社に合祀されますが、昭和(1947)年、上中里村に戻り、上中里神社となりました。

### ○上中里神社でおこなわれていた <弓射り神事>

子供の健やかなる成長を願い、毎年7歳になる男児が的に弓を射り、その矢を持ち帰って神棚に供え、15歳になった正月14日のせいと(どんど)焼きのときにお焚き上げしました。この行事は、上中里神社から近くの随縁寺に引き継がれましたが、昭和19年が最後になりました。

参考:磯子の史話、宮司のはなし

## 活動報告

3月17日予算委員会で質疑に立ちました。

「ケアラー・ヤングケアラーの支援」については、令和4年度当初予算案において、「ケアラー相談窓口やケアラー支援専門員の設置」「ケアラズカフェ」「ヤングケアラーの学習支援」など新規事業として計上されたことは、ケアラー・ヤングケアラーへの社会における認知度を上げ、支援の取組が進んでいく契機にもなると大いに期待するところですが、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、ケアラー・ヤングケアラーの支援に今後どの様に取り組んでいくのか知事の決意を問いました。

その他、「ひきこもり支援」「DX推進に伴う本県のセキュリティ対策」について質問を行いました。



### あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/ (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- 安全安心特別委員会委員
- 自民党県議団政務調査会筆頭副会長
- かながわ自民党女性議員局長

